

## 平成 30 年度の川部会の活動計画

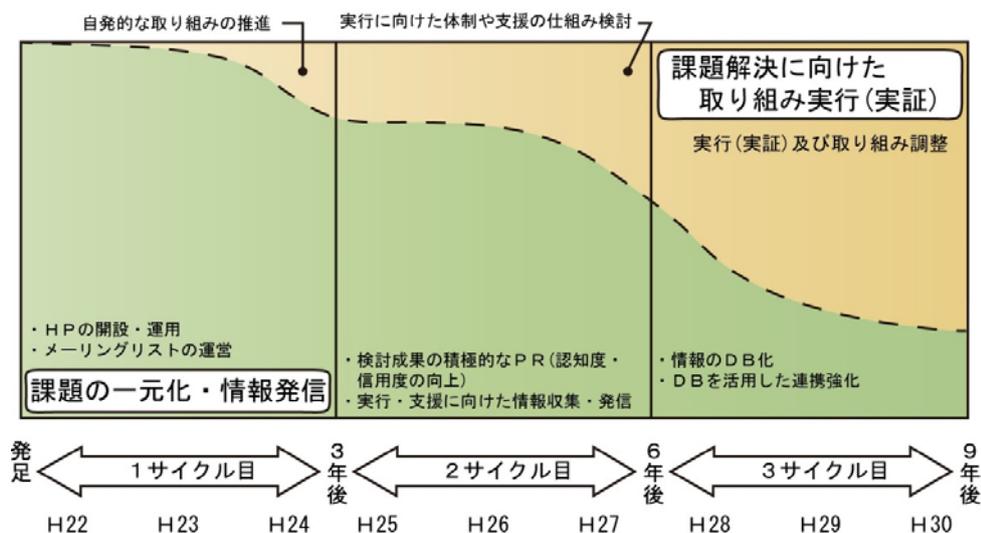
### 1. 懇談会の活動経緯と運営方針について

#### 1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

#### 1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 今年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



9年後以降も継続的に実施

### 2. 部会の3ヶ年の目標（平成 28 年度～平成 30 年度）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むことにした。

昨年度までの活動に対する課題や意見から、今年度以降の3ヶ年の目標（第5回全体会議承認事項）を以下に示す。

- これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなる取組みをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。
- 具体的な取組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。
- 関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換し、積極的な連携を進めていく。

### 3. テーマ別の来年度の活動計画

活動は、流域圏懇談会メンバーが主体となって実行し、必要に応じて関係者で地図や検討資料を囲んだ意見交換を実施する。

#### 3.1 本川モデル

##### 活動課題

- ・生き物の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題
- ・多様な物理環境と生物生息環境の創出

##### 活動方針

- 加茂川水門下流の段差改善を目的とした魚道の検討
- 矢作川総合土砂管理における給砂実験結果の情報共有
- 河川整備対策(河道掘削、樹木伐採等)に対しての事業者との意見交換
- アユの生息環境改善に向けた取り組みの情報共有
- 河川環境に関する基礎資料の成果(愛工大・内田研究室、大同大・鷺見研究室における研究成果)を用いた将来のあるべき姿に関する意見交換の実施

#### 3.2 家下川モデル

##### 活動課題

- ・生き物の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題

##### 活動方針

- 家下川湛水防除事業における進捗状況モニタリングと情報共有
- ひょうたん池の水量確保・水質改善方法・生物多様性の改善等の検討
- 関係者との継続的な意見交換の実施

#### 3.3 地先モデル

##### 活動課題

- ・地域の人々と川との関係を中心とした、地先の課題(河川空間の利用・保全のあり方)

##### 活動方針

- 「流域圏生担い手づくり事例集」作成活動への参加
- 豊田市水辺街づくり計画の勉強会の実施

### 4. 次年度の矢作川流域圏懇談会の体制について

流域圏懇談会の現状をふまえた体制や参加のスタイルについて、第8回市民会議では以下のよう

な意見があった。

- ・年に数回の市民を中心とした合同部会を行ってはどうか
- ・ここから先は、各部会もちろん大切だが、部会同士の横のつながりが大切になる
- ・イベントには部会に関係なく参加できれば良い

これらをふまえ、次年度以降の体制を事務局案として整理した。

- ・市民の目線に立ち流域連携テーマ（ごみ・流木、土砂、木づかい）やイベントなど、山・川・海の枠を越えた事案を話し合う「市民部会」（市民会議から改称）とする。
- ・市民部会では、個人・市民団体・関係団体が中心となって話し合いを行い、学識者および行政はオブザーバとして参加し助言等を行うものとする。
- ・地域部会の山・川・海の横断的な活動を目的とする合同部会（勉強会を含む）を必要に応じて実施する。

なお、これまでの個別 WG は、地域部会ごとに回数を設定し（年間 3～8 回：必要に応じて）実施し、個々の課題（山・川・海の個々のテーマ）について検討する。

次年度の懇談会の開催スケジュール案を以下に示す。

表：次年度の懇談会スケジュール（素案）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
地域部会		●	●	●	●	●	●	●	●	◆	
合同部会						◎		◎			
市民部会			○		○				○		
全体会議											★
流域連携に関するイベント	◎ (事例集交流会)					◎ (矢作川感謝祭)	◎ (三河湾大感謝祭)				

◆：地域部会のまとめ